

看護 青い森

ナース
センター
だより

vol.99 発行日
2018.1.31

■発行 / 公益社団法人 青森県看護協会 ■編集 / 広報出版委員会
■住所 / 青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836
URL <http://egao-park.net> E-mail ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp

平成29年度 会員数 8,571人
保健師 268人 看護師 7,571人
助産師 319人 准看護師 413人
(H30.1.16現在)



おいらせ病院



外来スタッフ



申し送り



病棟スタッフ



C·O·N·T·E·N·T·S

新春の挨拶	2
トピックス	3
CAREER UP	4
プリセプター・プリセプティの声	5
エルダー・新人看護師の声	5
保健師・助産師・看護師Ⅰ・看護師Ⅱ職能委員会	6～7
支部だより(三八支部)	8～9
支部だより(西北五支部)	10～11
支部だより(上十三支部)	12～13
ナースセンターだより114号	14～16



国民健康保険おいらせ病院

当院は、2006年(平成18年)に下田町と百石町が合併し「おいらせ町」が発足したことに伴い、「百石病院」から「国民健康保険おいらせ病院」に名称が変更されました。

私たちは、地域の皆様に信頼され、親しまれる病院を目指して日々の業務に取り組んでいます。

新春の挨拶



青森県看護協会会長

熊谷 崇子



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

平素から当協会活動にはご協力、ご支援をいただき感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、運営本部としては組織及び財務基盤の強化・改善、会員拡大に力を注いだ一年でした。

重点事項の地域包括ケアにおける看護提供体制の構築は、各職能委員会が有機的に動き、看護の質向上に貢献し、それぞれの活動を深化させることができたと評価しています。

また、看護師のクリニカルラダー活用の推進・働き続けられる労働環境整備の支援事業の推進については、中長期的に具体的に現場の状況を反映した取組を検討し、次年度に繋げていきます。

各常任委員会は諮問事項に対する本会事業の推進に向けて検討し活動を進めているところです。

看護職は、いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護を進めていく為に、組織を強化し看護政策力を

高めなければなりません。

地域医療構想のもと、各種計画改定のプロセスの中で、本会は委員として看護の立場から意見を述べ、見直しに参画しています。また、日看協主催で支部役員等の地域における看護政策力強化のための研修が、北海道・東北ブロックで行われ、本県の支部長も参加し、大いに刺激を受けました。

ナースセンター事業は登録制度も普及しつつあり、センタースタッフと地域の就業相談員が連携して、就職率も上昇しております。

現場においては、関係者や人々から看護の価値や効果についてより一層理解を得るために**看護の機能と役割を可視化**していかなければなりません。**看護職は職能意識を強化**し活動の推進を図るために会員拡大へつながらよう今後とも継続入会や新規の入会促進をよろしくお願い致します。

結びにこの一年が、皆様お一人おひとりに幸多い年でありますことをお祈りして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



母子保健奨励賞受賞者

助産師 橋爪 直美氏
(個人会員)



優良看護職員厚生労働大臣 表彰受賞者

看護師 板橋 玲子氏 (個人会員)

お二人には心からお祝い申し上げますとともに、今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

共同募金運動70周年記念特別感謝 多額寄付(団体)の部において青森県看護協会が受賞いたしました。長年にわたり会員の皆さまから寄せられた募金が共同募金運動への功績として認められました。

トピックス

健生病院・健生クリニック

総看護長 寺島由美

10月1日、新たな健生病院・健生クリニックでの医療活動が開始されました。そして、10月3日、外来診療を開始しました。津軽保健生協が開設以来この65年間大切にしてきたことは、誰もが差別されることなく平等に医療を受けられ、健康で豊かに生きることができる社会を、地域の人たちと共に実現することです。その変わらない思いを新たな地で、新たなかたちで進めていきたいと思っています。



病棟入り口前のエントランス



サポートセンター受付



新病院開院の日は、入院患者様が新病院に移動する日です。約170人の患者様を午前中で移動する計画ですが、ハラハラの連続でした。幸いに天気も味方をしてくれて、予定どおりに進み、患者様には新病院で昼食を食べていただくことが出来ました。

新病院での医療活動の柱は変わらず、救急、リハビリそして在宅医療ですが、新たに緩和ケア医療にも一歩踏み出しました。そして私たち看護は、まるごと地域包括ケアを担う一員として、与えられた役割に力を発揮し、次のステージに患者様を良い状態でバトンを渡せるように、あるいは受けられるように、看看連携をうまく機能させていきたいと思っています。

新たな活動の柱にサポートセンターの開設があります。入退院管理システム機能向上のために従来の地域連携室と患者相談室、ベッドコントロール部門を統括しました。患者様のあれこれをワンストップでトリアージすることで、満足度の向上、患者様の受療権の保障、そして業務の効率化をすすめることを目的としました。そのため、受付よりも目立つ場所に陣取り、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務で対応しています。そこでも、看護は様々な意味での連携を業務として行っております。



10月2日、当日の全職員が集合しての朝の会



CAREER UP

Part19



「おむつフitter」※

15年前医療療育の現場へ転勤となり、入所者のほとんどがおむつを使用している実態を目にしました。日々ケアをする中で、常に尿漏れや皮膚トラブル・頻回の更衣などが発生しており、尿漏れを回避するためおむつの重ね当てが行われていました。そこで入所者の安楽を一番に考え、重ね当てを最小限の必要枚数まで軽減するためスタッフの協力を得ながら行いましたが、当て方やおむつの選択によりなかなか尿漏れが軽減せず、スタッフの疲労や否定的な言葉が聞かれました。その時、手探りではなく根拠を持って協力体制を整えなければいけないと思い模索していたところ、テレビや雑誌で『(株)はいせつ総合研究所 はいせつ用具の情報館むつき庵』の活動を知り、資格を取得することを決心しました。平成21年3月にむつき庵で行われているおむつフitter3級を取得したことをきっかけに、同年4～6月にかけて2級を、平成22年5～8月にかけて1級を取得し現在に至っています。

実際の活動としては、入所者はじめ外来・短期入所等利用者や介護者へのアドバイス、他医療機関でのおむつの研修会開催、看護学生の実習での講義など行っています。また要望があれば、対象に合わせた少人数単位での学習会も実施しています。

資格取得して良かった事は、おむつ利用者の排泄状況を把握する事で根拠を持っておむつの種類の選択や当て方を的確に行う事ができ、その方の尊厳を守りながらケアできることです。また介護者の更衣・洗濯等の負担軽減、おむつ交換にかかる業務量の軽減、コスト削減につながり、おむつに関わる利用者や介護者から「よくなったよ」と声をかけていただけました時です。

今後は、入所者に限らず在宅で排泄行為に問題を抱え



実際の指導風景・カンファレンスの様子です

あすなる療育福祉センター
生活支援課 課長 佐藤 晴美



佐藤課長

ている方への介入も進め、おむつを利用する方やその介護者が笑顔で日常生活を送ることができるよう、学んだ知識や技術を活用して関わっていきたく考えています。

排泄行為は、生きていくうえで切っても切り離せないことです。たかがおむつ、されどおむつです。

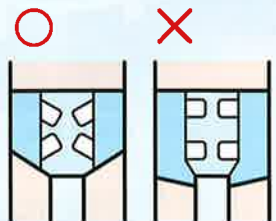
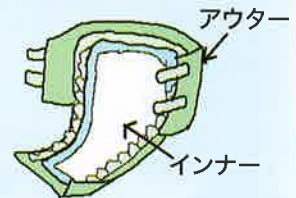
その人がその人らしく生きていくためには、根拠を持ってケアすることが大事です。小さな気づきや資格取得は自らの自信につながります。気になったことがあったら、是非一步を踏み出してください！

むつき庵は京都にあり、2級・1級研修は京都で行われます。観光を楽しみながら学びを深めるのも「あり」と思いますが、いかがでしょうか(^^)

おむつ交換について

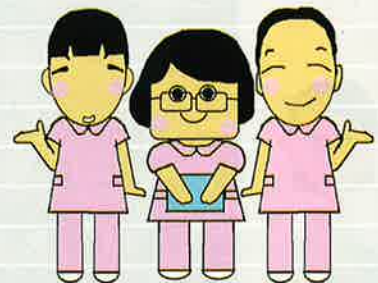
おむつは広げてギャザーを立て、インナーはギャザーの内側に入れておく。

アウターのギャザーを開き
インナーはアウターのギャザーの内側に入れる。



おむつは鼠径部に沿わせ、大腿部にできるだけかからないようにする。
変形や拘縮・排尿パターンにあわせて当て方をする。

あすなる療育福祉センターのおむつフitter1級所持者です。
左より
馬場・佐藤(晴美)・
佐藤(公子)です



※おむつフitterは、(株)はいせつ総合研究所排泄用具の情報館むつき庵の認定資格です。

プリセプター・ プリセプティの声

プリセプターの声

黒石厚生病院 比内 美栄子

私達が新人の頃は、今のようなプリセプター制度は定着しておらず、仕事は1日も早く先輩達の動きを見て覚えるという時代でした。近年は、プリセプターがマンツーマンで教育指導をする事で確実に技術を習得でき、又、間違いにも早く気付く事ができます。プリセプターの話の頂き、正直この年齢になって「なぜ私が？」と思いました。

しかし、日々の激務に加え、新しい職場（環境）である工藤さんの事を考えると不安と緊張でいっぱいなのではと思いました。そんな時こそ寄り添った教育指導をする必要があると考え、長い臨床経験を活かし技術面だけではない、私だからできる指導・支援をしようと心がけました。

今回、プリセプターをやる事で私も再学習する事ができ「教える事は二度学ぶ事」という意味を再認識しました。

これからはお互いを向上し合える、そんな先輩看護師でありたいと思います。



工藤さん(左) 比内さん(右)

プリセプティの声

黒石厚生病院 工藤 愛美

4月に入職し、たくさん覚えることがあり、不安を感じることもありましたが、しかし、プリセプターや先輩方が丁寧に教えてくださり、とても心強く感謝の気持ちでいっぱいです。日々目標をもって業務を行っていくことに対し、プリセプターからアドバイスやサポートを受け、相談もしやすい環境ができています。これからも多くのことを学び成長していきたいです。

エルダー・ 新人看護師の声

十和田市立中央病院では、エルダー制を導入しています。エルダーは、技術だけでなく、お姉さんのように良き相談者・理解者となり新人がスムーズに社会・職場に慣れるよう支援する役割を担っています。

エルダーの声

十和田市立中央病院 鳥谷部 佑紀

エルダーとしてどうしたら上手にコミュニケーションをとれるか考えました。直接話すより文章にした方が伝えやすいと思い、交換ノートを始めました。勤務がなかなか合わず、不安なことや悩んでいる事を知るにはとても効果的でした。精神面だけでなく、技術面を知ること



鳥谷部さん(左) 西村さん(右)



エルダー会

ができ、技術習得へ繋げることができました。また、新人の成長だけでなく、自分自身も成長することができ、今まで以上に業務を行えるようになりました。

新人看護師の声

十和田市立中央病院 西村 有加

エルダー制度は、病棟の「お姉さん」的存在であり、教育だけでなく精神面をサポートしてくれます。エルダーの先輩がいることで、仕事でのわからないこと、不安なことなど何でも話しやすく、失敗をしてもいつも優しくアドバイスをくださいます。仕事でわからなくて考えこんでいると、エルダーの先輩は一番先に気付いてくれます。新人看護師に常に目を配り、時には2人で話せる機会を設け、心のサポートをしてくださるので、エルダー制度があることは、新人にとってとても働きやすい環境だと感じています。



LOOK! マイレポマイレポ

保健師職能委員会コーナー

保健師職能委員会の活動を紹介します

保健師職能委員 保土沢 京子

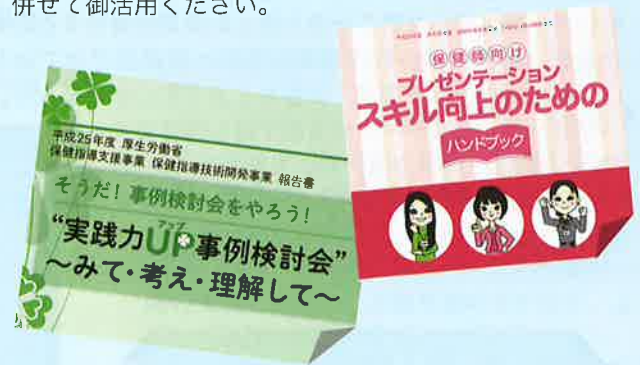
保健師職能委員会では、保健師の連携強化・ネットワークの構築を図り、保健師が専門性を発揮するための基盤強化の推進に向けた取組みとして、市町村における統括保健師の配置促進に係る実態調査や交流会等を通じた課題の共有化及び会員拡大のための活動などを実施しています。

具体的には、平成27年度に実施した「市町村における統括保健師に関する実態調査」で統括保健師が33.3%しか配置されていない現状を基に、県内市町村へ統括保健師の配置を促進するため、平成28、29年度に関連した学習会等を開催してきました。また、平成30年度には進捗状況を確認するため、再度調査を実施し、統括保健師の配置が進むよう、また、配置後に発生した新たな課題解決に向けた取組みを進めていく予定です。

保健師のみなさま！是非、青森県看護協会通常総会や

職能集会にご参加いただき、保健師職能委員会に関する理解を深めていただきたいと思います。

なお、日本看護協会のホームページには、統括保健師に関する資料を含め、様々な最新情報や参考文献など掲載してありますので、青森県看護協会のホームページと併せて御活用ください。



助産師職能委員会コーナー

災害時における助産師の役割

助産師職能委員 小笠原 ひとみ

10月21日に助産師職能委員会企画「災害時母子支援のための役割を考える」というテーマで研修を行いました。

東日本大震災の経験から石巻赤十字病院における周産期マネジメントについて真坂雪衣氏、災害時小児周産期リエゾンについて、青森県立中央病院 J-MAT隊員小澤幸恵氏のお二人から講演いただきました。

この講演で、災害時における助産師の課題は

1. 助産師自らが災害医療を学ぶ
混乱時にも安全な分娩ができるよう、医療機器が使えない状況にも対応できる技術、判断力を養う
2. 災害対応マニュアルの作成と見直し、災害対応訓練の実施
自施設にあった具体的な行動レベルのもの
3. 妊産婦への情報を提供するマニュアル作成
物心両面の備えの必要性を意識出来る

などがあげられました。

最近の自然災害の頻度は「災害は忘れなくてもやってくる」と言われるぐらい多いです。危機感を持ってこの課題に取り組んでいきたいものです。さらに、看護協会における災害支援ナースは、現在、県内助産師の登録がありません。周産期医療に特化した助産師が力を発揮できる可能性は大きいと思います。

今後、助産師職能委員会としては災害看護を学ぶ助産師が増えるための活動も併せて行っていきたいと思いません。



看護師職能委員会コーナー

平成29年度 看護師特定行為研修の概要と現状

平成29年10月7日(土)「看護師特定行為研修の概要と現状」についての研修会が県民福祉プラザで開催されました。講師に神戸女子大学 健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科 教授 洪愛子氏を迎えて前半は講義、後半は十和田市立中央病院 皮膚排泄ケア認定看護師 木村英子氏が特定行為研修修了後、実践での活動を発表されました。

研修のねらいは「特定行為研修制度の概要を理解し、看護の専門性発揮とチーム医療推進に制度がどのように活用可能かについて学ぶ」であり、内容は①特定行為に係わる看護師の研修制度の概要、②日本看護協会の考え方、③研修制度の活用と今後への期待とし、33名の参加がありました。

洪先生からは、2025年問題に向けて住み慣れた地域で生活が継続出来る仕組み作りが必要であり、地域、国民のニーズに積極的に応えるため、特定行為研修制度の活用を推進していかなければならない。また、特定行為研修で医学的知識・技術を強化した上で、病態の変化や疾患、患者の背景を包括的にアセスメントし看護を基盤

看護師職能委員会 I

看護師職能 I 委員 (県立中央病院) 石川 里香子
に特定行為を含めた質の高い医療・看護を効率的に提供することが期待できる。認定看護師を対象に特定行為研修を行うことで、能力強化と活動場所の拡大で認定分野の特徴を活かし、専門性を発揮し、ニーズに応えることが期待できる。更に研修対象者が就業中であることを配慮し、教育の多様化を図ることが必要で、講義の部分は遠隔教育(eラーニング)可、連携協力体制(連携協力体制とは、指導者、医療安全管理、緊急時の対応、患者への同意説明体制、該当症例数の確保等の要件を満たす体制)が確保できる場合、自施設で実習可能となる。認定看護師の場合、一部の履修免除、集合教育期間の短縮化などが図られ、今後認定看護活動を考慮した受講モデルを複数設定する必要があると話されました。

研修会後のアンケートには、研修内容に対する意見として「現状や制度の背景がよく理解できた」、また「特定行為研修修了生による講義は実践に基づいたものであり、大変よかった」という感想があり、今後参考にできる研修内容でした。

「高齢者施設で働く看護職リーダー マネジメント力向上」に参加して

平成29年9月30日(土)、看護師職能委員会Ⅱ企画の研修会を行い、講師には千葉大学大学院看護学研究科教授 酒井郁子氏を迎え、高齢者施設等で働く看護職43名が参加しました。

午前中は高齢者施設の看護職管理者の「ケアの質の管理」を中心に講義がありました。施設は病院と違い長期ケアとなるため倫理的感受性を基盤とする技術はもちろん高齢者を理解しようとする姿勢が必要であり、死を含めたケアが求められているという話がありました。午後は、ケアの質評価「構造・過程・評価」に分類し、各施設で悩んでいることの解決策についてグループワークを行いました。他職種、特に介護職との連携に関する悩みが多く聞かれました。講師からは「それは問題点にならない、ただの愚痴!」との指摘があり、また「仕事が忙しい、精神的負担が大きいのは当たり前、看護とはそういう仕事! 覚悟すべき!」との言葉も有り、受講者から「説明が直球でわかりやすかった」「他施設との情報共有が

看護師職能委員会 II

看護師職能Ⅱ委員 佐々木 貴子



研修会の様子

出来た」「もっと管理について聞きたかった」「大変役に立った」などの意見がありました。先生から「パワーと元氣」をいただいた研修会でした。

三八支部だより

第一副支部長の松本です

今年5月の支部集会で第一副支部長として選任されてから、早いもので7か月が過ぎようとしています。三八支部は看護研究発表会、研修会、地域活動などの事業ごとに実行委員会が設置され組織的に活動をしています。第一副支部長という大役に最初は戸惑いましたが、多団体の会議に出席する機会があり、改めて看護の持つ影響力やかかわりの広さを感じました。在宅での医療や看取り、認知症ケアなど看護がイニシアティブをとっていかなくてはならない場面で積極的に支部の代表としての役割を果たしていきたいと思えます。

県内で最も会員数が多い三八支部ですが、会員の皆さんが知りたいこと望んでいることにこれからも耳を傾け、事業を進めていきたいと考えています。支部長はじめ新役員の皆さんや実行委員の皆さんの助言を得ながら、微力ではありますが一生懸命活動していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(記：南部町医療センター 松本 朋子)



八戸市環境・健康フェスタ2017

健康まつり & 環境展



平成29年10月1日に八戸市公会堂・公会堂文化ホールで開催された「八戸市環境・健康フェスタ2017 ～健康まつり&環境展～」に今年も参加させていただきました。

このイベントは市民に対して健康と環境意識啓発の場として毎年開催されており、私たち三八支部は身長・体重・血圧・体脂肪測定を行うブースを担当しております。今年は10代から90代という幅広い年齢層の方々がお越しになり、「今年も来たよ」「看護師さんに測ってもらいたくて来た」という言葉を掛けていただきました。血圧や体調管理等に関する質問をされる方が多く、健康に対する意識の高さを感じました。短い時間でしたが、505名の来場者の方と関わることで、私たちも健康啓発の大切さを改めて感じました。

市民の皆さまと交流でき、健康や環境に関する新しい知識を得られるイベントです。来年度も参加予定ですので、皆様のご来場をお待ちしております。

(記：庶務係 小田桐綾子)



三八支部看護研究発表会

第35回（平成29年度）青森県看護協会三八支部看護研究発表会を開催しました

青森県看護協会三八支部では12月2日に、八戸市総合福祉会館において看護研究発表会を開催しました。日頃の多忙な業務の中での研究は、多大なご苦勞があったと思いますが、会員の皆様ならびに関係者各位のご協力で、今年35回の開催を迎えることができました。

発表演題4題、発表終了後は昨年度に引き続き、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻、小児看護学分野教授 塩飽仁先生に講評をお願いしました。

演題毎に『Strong Points』と『Weak Points』を示していただき、具体的でわかりやすいものでした。また、『研究を展開する際の重要なポイント』についてもご指導いただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

ありがとうございました。

（記：庶務係 小川けい子）



西北五支部だより

平成29年度西北五支部集会



平成29年度青森県看護協会西北五支部集会が5月27日(土) 13時より、つがる市生涯学習交流センター松の館にて、支部会員598名のうち、出席者53名、委任状488名により開催されました。



初めに高松都子支部長より挨拶があり、その後平成28年度事業報告・平成29年度事業計画、平成29年度事業に要する経費割当について報告がありました。最後に新旧役員の紹介があり閉会となりました。

皆様ご協力ありがとうございました。



平成29年度 第1回研修会

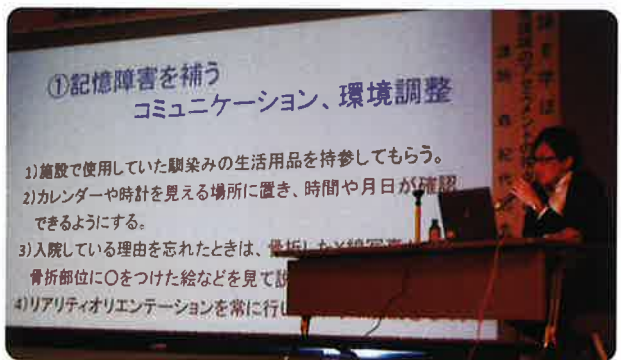
「認知症看護を学ぼう」

～認定看護師のアセスメントの視点から～

平成29年5月27日(土)西北五支部集会終了後、つがる広域連合かなぎ病院、認知症看護認定看護師、森 紀代志氏を講師に迎え、研修会が開催されました。病院・施設から看護職・介護職の88名が参加しました。

社会の高齢化に伴い、入院患者における高齢者の割合も増加、このため、入院時に認知症を持っている患者さんも増えています。今回の研修では、認知症の入院時のアセスメント・看護の実際を、事例を通して説明していただき、参加者からは「とってもわかりやすい」と大反響でした。

また今回の研修から認知症看護は、「記憶障害や判断力の低下を改善させるのではなく、心理的な安定や安心してもらえる場所と感じてもらふことを目標に看護していくこと」が大事である事を学び、明日からのケアに活かしていきたいと思いました。



今後の活動予定

- *平成30年 5月12日(土) 「看護の日」イベント
- *平成30年 5月26日(土) 支部集会&第1回研修会
- *平成30年10月20日(土) 第2回研修会



看護の日

～看護の心をみんなの心に～

平成29年5月13日(土)イオンモールつがる柏店にて「看護の心」を広く市民の方々に周知してもらうことを目的にPR活動を行いました。

私たち支部役員の他に、地域の訪問看護師さん達も応援に駆け付け、「看護の日」PRのグッズ配布、健康相談や、血圧の相談など行いました。また子供の写真撮影では元気一杯の子供たちの声に私たちも笑顔になりました。



平成28年度 第2回研修会

がん化学療法の最新情報

～医療と患者の立場から～

平成28年10月8日(土)、つがる市生涯学習センター(松の館)にて、「がん化学療法の最新情報 ～医療と患者の立場から～」をテーマに、西北五広域連合つがる総合病院、がん化学療法看護認定看護師・小山内大樹講師、綿ぼうし会代表・赤石敏子講師の2名を迎え開催されました。

参加者84名と会場入り口には「ろくつがるの会」からの色とりどりの手作りの帽子が紹介され、参加者の皆さんにプレゼントしていただき、笑顔と活気のある会場の雰囲気となりました。

小山内大樹講師から、「化学療法とは」「血管外漏出」「過敏症・アレルギー」「抗がん剤曝露」「がん患者・家族 ろくつがるの会」についての最新情報を写真を盛りだくさん使用し、とてもわかりやすく講演していただきました。そして現在、化学療法の場合は外来に移行されている為、治療の前後を自宅で過ごす患者のセルフケア能力の向上や、生活と治療の両立を支える為に外来看護を充実させ看護提供できるシステムを今目指していると力強く語られました。



小山内大樹講師



赤石敏子講師

次に赤石敏子講師は「ピンクリボン月間」の10月を意識し、ピンクの服装ではつつとした声で講演してくださいました。自分自身が乳がんと宣告され、受け入れられず、身体も心も傷ついた時代、そんな時家族の支え、まわりの支えがあったからこそ、乗り越えられた事。そして今、綿ぼうし会の帽子を受けた人から「ありがとう」の笑顔が嬉しく、自身の財産であると話されていました。最後に乳がん検診の受診を強く希望して講演は終了しました。

今回の講演から私たちは、化学療法を受ける患者の安全と、不安をできるだけ軽減できるよう、そしてがん患者が自分らしく過ごせるよう今後も患者に寄り添い支援していきたいと思いました。



上 十 三 支 部 だ よ り

平成29年度上十三支部集会

平成29年5月27日（土）、上十三支部集会が三沢市国際交流教育センターで行われ、総会員数972名、委任状提出750名、出席者数90名で集会が開催されました。

坪支部長の挨拶の後議長団が選出され、議事が進行されました。平成28年度事業及び収支決算報告、平成29年度事業計画及び事業に要する経費割当について報告がありました。第1号議案、平成29年度役員改選について賛成多数により承認され、新旧役員の紹介があり閉会になりました。坪支部長が退任となり、平成29年度からは館田新支部長へ交代となりました。

坪支部長、お疲れ様でした。館田新支部長、よろしくお願いたします。

(記：幹事 米内山裕樹)



支部長あいさつ

上十三支部では、今年度、病院、訪問看護ステーション、保健所、市町に所属する、保健師、助産師、看護師の3職能13名の役員で支部活動を企画運営していきます。今後も会員の皆様の声を聴きながら、支部活動の一層の推進を目指して活動を進めますので、よろしくお願いたします。

(記：支部長 館田有佳子)



平成28年度事業報告の様子



メディコトリムを学習して美しく元気に働こう

支部集会終了後、青森県立中央病院の小野正人先生、境沙織先生を講師に迎え「メディコトリムを学習して美しく元気に働こう」をテーマとして春の看護研修会を開催しました。参加者は106名でした。

ぴんころ教の教祖を自称している小野先生の講演は、私たち看護職はその人の健康教養に合わせた「わかる翻訳」をすることが必要であり、メタボ、ロコモ、認知症、寝たきりの予防と対策のために生活習慣の改善が重要で

あるとの内容で、参加者全員聞き入っておりました。

また境先生からは美しい体になるための運動指導を受け、実際に体を動かし、とても充実した研修になりました。

(記：幹事 米内山裕樹)



ユーモアたっぷりで辛口のコメントで会場は大笑い

ぴんころ教の教祖と自負しています



真剣に運動するみなさん



健康増進事業

三沢市社協まつり

平成29年9月24日(日)三沢市社会福祉協議会主催の第12回社協まつりが開催されました。爽やかな秋晴れの中、約180名の方々が来場し、会場は熱気に包まれました。

血圧測定、血管年齢、骨密度測定、健康相談を行いました。結果を見て笑顔になる方や生活習慣を見直さなければと振り返る方、毎年のこの測定を楽しみに食事や運動に気を付けているなどの声を頂き、多くの市民の皆様の健康づくりについての意識の高まりを実感すると共



今日の血圧はどうでしょう～？

に、当事業の効果や要望の高さを知ることが出来ました。
(記：幹事 石倉 咲子)

看護の日PR・キャンペーン

in 十和田

平成29年5月13日(土)道の駅とわだにて、看護の日PR・キャンペーンを実施しました。曇り空で気温も低いあいにくの天気でしたが、来場された方は77名。血圧・血管年齢・骨密度測定を行い、結果説明・健康相談を実施しました。また、グッズ・風船の配布にて看護の日を呼びかけました。

測定コーナーの一番人気は「血管年齢測定」でした。なかなか測定する機会がないため、多くの方に喜ばれました。健康相談では、測定結果に一安心される方、かかりつけ医に相談してみるという方、何に気をつけたいい



今年の血圧はどうか～？

のかという方など、生活習慣を見直すきっかけとして活用されていました。
(記：庶務 深澤 重香)

看護ケア検討会

テーマ「認知症の人を地域で支えるために」

講師・座長

公立七戸病院 認知症看護認定看護師 久保田由美子 氏

パネリスト

- ・十和田市役所高齢介護課包括支援係長 櫻田由紀子 氏
- ・くらしの居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 佐藤 和也 氏
- ・認知症の人と家族の会青森県支部 十和田地域世話人 石橋由紀子 氏



講師・パネリストのみなさん

平成29年10月14日(土)、青森原燃テクノロジーセンターで看護ケア検討会を開催し、看護職・介護職合わせて77名が参加しました。

久保田氏からは、認知症看護認定看護師の立場から病院における認知症ケアの取り組みについての講演があり、パネリストの櫻田氏からは認知症施策新オレンジプランと十和田市での取り組みについて、佐藤氏からは在宅での認知症の人との関わりについて、石橋氏からは認知症の人と家族の会の活動について、それぞれの先生方から貴重なお話を伺うことができました。

今回の看護ケア検討会を通し、認知症の人の暮らしを支える看護の実践に向けて、多職種の連携・協働を深め、本日学んだことをそれぞれの立場で生かしてほしいと思います。

(記：庶務 高井 敏子)



続々と参加者が集まっています

青森県ナースセンターだより 114

研修会実施報告

静脈注射学び直し研修会（初級編）

実施日：平成29年9月9日（土）
青森県立保健大学

静脈注射の基礎的知識から実際の注射器と薬剤を用いた演習を行いました。

未就業でブランクのある方や、就業中の方も参加いただき、はじめは皆さん緊張している様子でしたが、講師の丁寧な指導と明るい雰囲気での演習に、楽しく学べたという声が聞かれました。

演習に
使用した
腕モデル
です。



セカンドキャリアセミナー

実施日：平成29年10月18日（水）
県民福祉プラザ

昨年度から始まったセカンドキャリアセミナーに、今年も17名の看護職の方に参加いただきました。講師にみちのく銀行の坂本真貴子氏と山崎哲志氏をお招きし、「年金と生活設計」をテーマに定年後のライフプランについて講義いただき、体験談発表では2名の看護職の方々にお話を伺いました。

坂本真貴子 氏

年金の受取り方や申請、計算方法などわかりやすくお話いただきました。



山崎 哲志 氏

資産運用・相続・遺言についてお話いただきました。



体験談発表



阿部 恵子さん(看護師)
3.11の震災でも感じたことから、退職後は「家族優先」で過ごしているそうです。今はセンターからの紹介でイベント救護や修学旅行添乗看護師として働いています。



千葉 徳子さん(保健師)
趣味の数独をきっかけに、脳が働き脳が喜ぶことがしたいと思い就職活動をはじめ、新しいことを学ぶのが楽しいと話していました。現在はパートのお仕事で頑張っています。

輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会

実施日：平成29年11月16日(木)
県民福祉プラザ

ナースセンター事業の一環として「再就業支援のための輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会」を開催しました。

テルモ株式会社横内さんのもと、医療用ポンプについて座学と実技演習を行いました。

参加者の感想

- 自分で曖昧なところを確認できた。
- 実用的で為になり、復職への自信につながった。
- 福祉施設では扱いが無いので勉強になった。医療系への就職も検討してみたい。
- 病院勤務経験がないので、参加できてよかった。自分に自信とやる気が出てきた。
- 機器の仕組みを覚えて何度も確認する事が大事だと思った。これからも事故のないよう注意していきたい。



ナースセンターでマッチングした求人施設と求職者の紹介

国立病院機構弘前病院

当院で勤務している小林早織さんとは、ナースセンターからご紹介頂き採用面接が初めての出会いでした。

北海道で生まれ育ち、看護の道に進み、ご結婚後は二人の子育てと仕事を両立させ、看護師としての勤務を続けてきた小林さんからは、面接時の言葉一つ一つに看護に対する熱意と専門職人としての凛とした姿勢を感じました。

ご主人の転勤で、生まれて初めて北海道から離れ、弘前での生活を始めて2ヶ月後の事でした。小学生と1歳の子供さんの育児をしながら仕事への熱意と誠実な人柄に当院の看護サービスの質の向上にむけて力を発揮できる方と確信し採用させて頂きました。

小林さんには皮膚科外来を担当して頂いております。

アレルギーや内科系疾患を有している患者さんも多く、長期に渡る日常生活上の調整に伴う指導が必要になります。小林さんの人柄と勤勉さは、患者さん一人一人が望まれている支援に結びついております。



小林早織氏(左) 高橋 香氏(右)

国立病院機構は全国に142の病院をもつ組織です。各地からの異動を体験している職員もおります。弘前病院での出会いを機に弘前の風土と人の温かさに触れながら、看護職員一人一人能力を発揮できる職場環境を作りたいと思います。

看護部長 高橋 香

非常勤看護師 小林 早織

私は、夫の転勤で北海道から青森県に引っ越してきました。仕事をしようと思いましたが、どのような病院がどこにあるのかが分からずにいた時、ナースセンターの存在を知り登録しました。

インターネット画面でも様々な情報を見ることができましたが、直接、ナースセンターから電話を頂き、希望の条件に合った病院を探すことができました。

私は、短時間の勤務で、子供を預ける保育園を併設している病院を希望していました。そんな細かい希望にナースセンターは対応してくださり大変助かりました。

現在は、外来で週30時間のパート職員として勤務し

ています。外来には自分と同じ子育て中の職員が多く、それぞれライフスタイルに合わせた勤務時間を選択し、家庭と仕事を両立しながら生き生きと働いています。私も子供と向き合う時間ももしっかり確保でき、仕事と子育てととても充実した日々を送っています。

外来勤務は初めての経験で、沢山学ぶことがあります。病棟のように患者様とじっくり関わる時間が少ないのですが、短時間の関わりの中でも、患者様の訴えに良く耳を傾け、不安を和らげ、病院の顔としての自覚をもちながら勤務しています。今後、子育てが落ち着いたら、また夜勤も含めたフルタイムでの勤務も考えており、日々の業務の中で看護スキルを磨き、沢山の経験を積んでいきたいと思っています。

ナースセンター登録方法

パソコンでインターネットによる紹介サイト「eナースセンター」から登録（スマートフォンも可能）

★来所やFAX等での登録もできます

下記のサイトより登録いただけます。
<https://www.nurse-center.net/nccs/>



登録有効期限は6ヵ月

お知らせ

eナースセンターシステム一部変更について
 職業安定法改正の施行(2018年1月1日)に基づき、eナースセンターのシステムを2017年12月7日より一部変更致しました。

■主な変更点

- 求人票及び求職票を一部変更
- 早期離職状況の登録機能を追加
- 求人応募を行った際の求人票表示/印刷

詳細について
 eナースセンターで
 確認をお願いします。



各種お問い合わせ

青森県ナースセンター ☎017-723-4580

サンロード青森「まちの保健室」からのお知らせ

このたび、平成30年3月25日(日)をもちまして、サンロード青森「まちの保健室」は終了する運びとなりました。
 これまでのご支援・ご協力まことにありがとうございました。

信頼の技術を、
 医薬品へ。

信頼の医療機器・医薬品

NIPRO

www.nipro.co.jp

B S 放送・インターネットで学ぶ

テレビは 231ch、ラジオは 531ch。自宅がキャンパス。



看護師の特定行為研修
 共通科目全科目(講義・演習部分)開講!!

放送大学は正規の
 通信制大学です。
 入学は年2回
 (4月、10月)。
 学位取得やキャリ
 アアップ、生涯学
 習を目指す方を応
 援します。

青森学習センター
 電話 0172-38-0500
 弘前市文京町3
 (コラボ弘大7F)

八戸サテライトスペース
 電話 0178-70-1663
 八戸市一番町1-9-22
 (ユートリー内)

編集後記

今年の冬は、爆弾低気圧などで寒い日が続いたり、インフルエンザの流行などで皆様の体調管理は十分でしょうか？

今年は記念の100号誌と、一般向けの広報誌が発行されます。メンバー同協力し合いすばらしい記念誌にしたいと、努力していますので楽しみにお待ちください。又、一般向け広報誌もぜひ読んでいただきたいと思います。今年も皆さんの想いに添えるような「看護 青い森」を目指していきたいと思いますので、どうぞよろしくお祈りします。
 (山崎 公子)

この心地良さ、誰にも譲れない

エーデル
EDEL
 2017 collection



TUK
 〒030-0121
 青森市妙見1丁目5-10

東洋羽毛北部販売株式会社
 青森営業所
 ☎0120-389553

GOOD DESIGN
 エーデル「マウンテンキルト掛けふとん」は
 2017年度グッドデザイン賞を受賞しました。